

1人ひとりの優しさが 命を救う大きな支援へ

～青少年赤十字海外支援事業～



日本赤十字社

日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部

ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課 2017/6/23作成 2018/6/29更新

**学校に行くことができない
子どもたちの数：約5,900万人**

**5歳を迎える前に命を落としてしまう
子どもたちの数：1年間に約590万人**

トイレが利用できない人たちの数：約24億人

**紛争や災害の影響を受ける
子どもたちの数：約5億3,500万人**

世界では・・・

学校に行くことができない子どもたちの数：約5,900万人

5歳を迎える前に命を落としてしまう子どもたちの数：1年間に約590万人

トイレが利用できない人たちの数：約24億人

紛争や災害の影響を受ける子どもたちの数：約5億3,500万人

(いずれもUNICEF<http://www.unicef.or.jp/kodomo/>より)

このような現実が広がっています。

わたしたちは、この世界の現実をどれくらい知っているでしょうか？

そして、その現実に対して何ができるでしょうか？

数字だけでは、なかなかイメージがつかないかもしれません。



© José Cendon/IFRC

この世界には、わたしたちにとって当たり前の生活が困難な状況で生活している子供たちが沢山います。

【写真：エチオピア Damota Pulassaの食糧配給センターで撮影された栄養失調の子ども】



©Jakob Dall/ Danish Red Cross

安全な食事や飲み水を得ることが難しい子供たちも沢山います。

【写真：マラウイ マラウイ赤十字からの飲料水の配給をもらう少女の様子】



© Jakob Dall/Danish Red Cross

災害によって、命を落とす人や、これまでの生活を奪われる人たちもたくさんいます。

建物が脆いことによって、地震や台風の規模に関わらず、甚大な被害をもたらす場合があります。

また、災害に関する知識がないことで、まもるべき命が守られないこともあります。

【写真：パキスタン 2005年の地震で被災した子どもの写真】



© Stephen Ryan /IFRC

苦しんでいる人を救いたいという思いを、青少年赤十字の中で形にすることはできないのでしょうか。

世界中の子供たちの笑顔を守るために、わたしたちができることがあります。

異なる他者を認め、受け入れること。

支援を通じて、思いやりの心を育むこと。

よりよい社会を築くために助け合うこと。

一人の小さな力でも、力を合わせれば、よりよい世界を作ることができます。

【写真:セルビア シリア東部、イラク西部からセルビア国境における難民キャンプ
で過ごす子供たちの笑顔】

青少年赤十字 3つの実践目標

健康・安全

自分や家族、友達のいのちと健康を大切にする心を養い、進んで安全に配慮し、健康を増進するための生活習慣を身につけます。

奉仕

集団生活の中の一人として社会的な責任を自覚し、まわりの人のために奉仕する心と実行力を養います。

国際理解・親善

広く世界の子供たちのことを知り、仲良く助け合う精神を養う

現在の私たちの生活は、国際的な関わりを抜きにしては考えられません。このためには、お互いに相手を正しく理解し、交流を深めていき、真の意味の親善を確立することが必要です。また、外国のことを知ることは、自分自身を知ることにも繋がります。

このような途上国の問題に対して、私たちには、何ができるか考えてみましょう。

青少年赤十字では、3つの実践目標を掲げています。

生命と健康を大切にするという「健康安全」、
人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行することの「奉仕」、
そして広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う「国際理解・親善」です。

私たちは社会の一員として生きています。また、いつも世界の国々との繋がりの中で生活しています。世界の人々について知り、互いに理解を深め、助け合うことが重要です。

途上国の人々や、彼らが抱える問題について知り、何ができるのか考え、彼らのいのちを守るために行動することが求められています。

世界の赤十字・赤新月社の数

191カ国

(平成29年12月現在)



赤十字を通じて、何ができるのでしょうか？

世界にはいくつ赤十字・赤新月社があるか知っていますか？

現在、世界の国の数、196か国*のうち、190か国に赤十字社・赤新月社があります。それぞれの国に赤十字社・赤新月社があることで、災害発生など有事の際に迅速に対応でき、現場が求めていることに応じた支援を展開できるのです。

*外務省<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/world.html>



赤十字の国際的なネットワーク



赤十字は、どのような体制で支援を実施しているのでしょうか？

主に紛争地で活動する赤十字国際委員会 (ICRC)、災害時に活動する国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社・赤新月社の3つの機関が国際的なネットワークのもと、災害や紛争など、あらゆる人道危機に対応してグループとして活動しています。

赤十字国際委員会は、1863年の創設以来、国際人道法にもとづいて、戦争、内戦または国内騒乱の犠牲者に対し人道的支援を行っています。スイスのジュネーブに本部を置いて世界中で活動しています。

国際赤十字・赤新月社連盟は、各国の赤十字社・赤新月社の国際的な連合体であり、スイスのジュネーブに事務局と世界60カ所以上に代表部を置いている、独立した人道機関です。

各国の赤十字社・赤新月社は、「命と健康を守る」、「苦痛を軽減する」、「人間の尊厳を守る」という目的のために幅広い活動を行っています。

青少年赤十字での海外支援事業

目 的

- 支援国赤十字社が実施する、学校の教育・衛生環境の改善支援、防災教育への取り組みを支援することで、支援国赤十字社の青少年赤十字メンバーの健康・安全の確保を図る。
- 日本の青少年赤十字メンバーの「国際理解・親善」の知見を広める。
- 支援国赤十字社の青少年赤十字活動基盤の強化

期 間

- 平成29年4月～平成32年3月（3年間）



協力金額

- 1カ国につき年間約800万円

日本の青少年赤十字メンバーが集めた1円玉募金を財源の一部とする



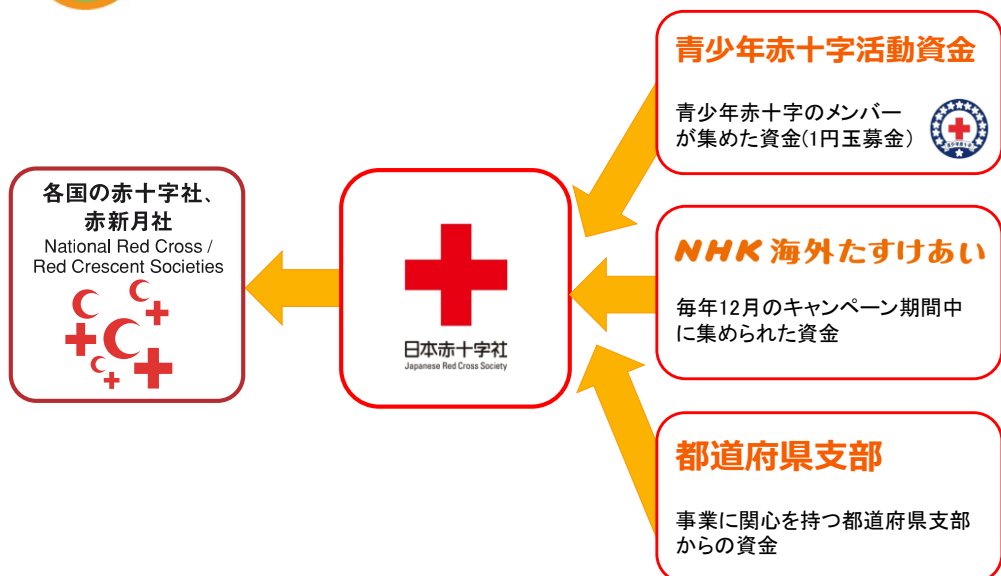
赤十字のネットワークの中で、わたしたち青少年赤十字としての支援事業にはどのようなものがあるのでしょうか？

日本赤十字社は、平成16年から青少年赤十字メンバーから寄せられた1円玉募金をもとに、海外の青少年の支援を行ってきました。

平成29年4月からは、同世代の子どもたちのための支援としてネパールとバヌアツを対象に、それぞれ持続可能な水と衛生環境改善事業と、学校における防災減災教育の普及事業を開始いたしました。



青少年赤十字海外支援事業の仕組み



青少年赤十字海外支援事業は、青少年赤十字メンバーから寄せられる1円玉募金、毎年12月にNHKと協同で実施している「海外たすけあい」キャンペーンで集められた資金、各都道府県支部から海外の青少年事業のために寄せられた資金をもとに、実施しております。

集められた資金は、日本赤十字社本社を通じて、海外の赤十字・赤新月社に届けられ、現地のニーズに応じた活動に充てられます。

日本赤十字社から各国の赤十字・赤十字社に対する支援では、現場の状況について各国赤十字・赤新月社から直接報告を受け、支援内容を決定するため、より現地の問題やニーズに柔軟に対応できることが特徴です。

ネパール

持続可能な水と衛生プログラム

[Equitable and Sustainable Water, Sanitation and Hygiene Promotion (WASH) Project]



事業目標

目標1: 2020年までに子供たちが衛生的な行動を身に付ける知識と技術を得ること

目標2: 性別や年齢、障害に配慮した衛生環境を形成すること

目標3: 水に起因する感染症の蔓延を防ぐこと

目標4: 衛生的な施設や環境を維持する状態を保つこと

主な事業内容

○先生、生徒に対する水と衛生プログラム研修の実施

○研修を受けた子供たちによる地域への知識の伝達

○性別や年齢、障害に配慮したトイレや手洗い場の整備

○水に起因する感染症に関するミーティングの実施

○正しい手洗い、衛生についての村レベルでの知識の伝達

では、ネパールにおける事業の概要を詳しく見ていきましょう。

ネパールでは、「持続可能な水と衛生」事業を実施します。

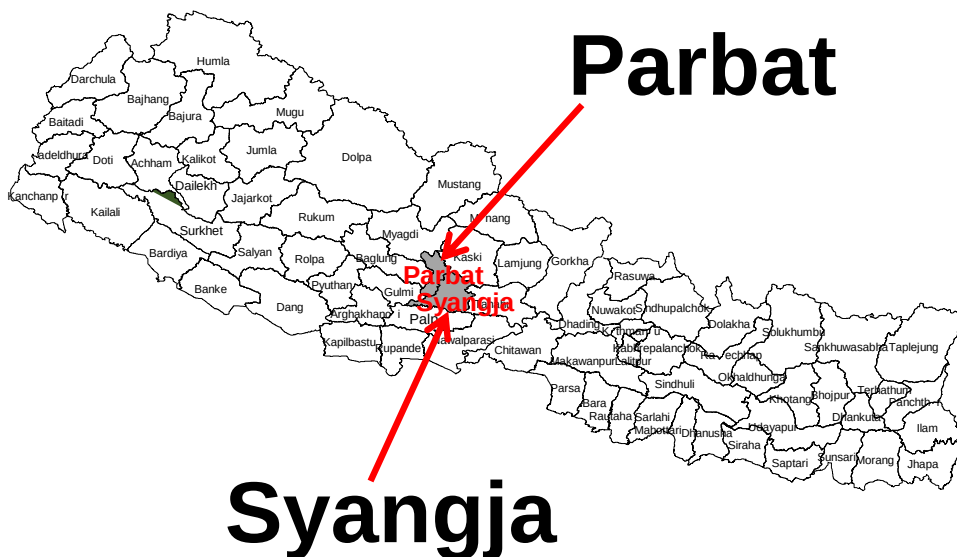
ネパールは、ヒマラヤ山脈を有する山岳の国です。そのため、上下水道の整備などが遅れており、

特に山岳部の村々では衛生状態が不十分、毎年2万人を超える人が不衛生な水の使用による感染症で亡くなっています。

不衛生な環境の中で下痢症に悩まされることも多く、5歳未満時の死亡につながる一因ともなっており、まずトイレや

水道設備の整備が急務となっています。

対象地域：シャンジャ郡・パルバト郡



今回の対象地域はシャンジャとパルバトという地域で、第2の都市ポカラからは車で1時間～1時間半ほどのところにあります。

昭和59年～平成11年まで日本赤十字社（以下、日赤）と協同で始めた飲料水供給事業は、ネパール赤十字社（以下、ネ赤）の発展に大きく貢献し

国家全体の衛生状態の成長にもつながり、国家からネパール赤十字社への同分野の信頼は厚いです（この事業をきっかけに国は水衛生分野におけるマスタープランを策定しています）。

平成16年から始めた教育等支援事業から引き続きの支援ではありますが、事業管理や活動からみても1円玉募金にかかるモデルとなる事業としてふさわしいといえます。

現在の学校におけるトイレの状況



左 : Devbani lower Secondary School



右 : Saraswoti Secondary School

2015年のWHOおよびUNICEFの共同調査データで

ネパール全土の手洗い設備普及率が46%程度であるなど地方での公衆衛生普及は進んでいないことが判明しています。

また、2015年に起こった地震は衛生分野の環境改善を妨げました。

これは、実際の学校におけるトイレの様子です。清掃員はおらず、トイレがあってもトイレトパーパーや手洗い場がない場合も多いです。

トイレや手洗い場などの衛生設備の普及や石鹼を使った手洗いを促し、子供たちの意識を変える必要があります。



1円玉募金のゆくえ -in ネパール-

日本国内の学校で
1円玉募金を実施



日本にいる青少年赤十字メンバーがお小遣いを節約したり、募金活動をして集めたお金を日本赤十字社を通じてネパールに送金します。

募金の使い道を
現地のニーズに
応じて工夫



日本から受け取った募金をもとに現地の赤十字スタッフが学校や地域の人々と話し合い、学校や地域に本当に必要な支援を考えます。手洗い場の整備やトイレなどの改善に使われます。

正しい知識を学び
学校内で広める



活動は、トイレの正しい使い方や手洗いの大切さなどの知識を学ぶことに重点を置いています。知識を普及することで、正しい実践が根付くことを期待しています。

子どもから家庭や
地域コミュニティ
へ発信



学んだ知識は、子供たちの家族や地域の人たちにも伝えられます。子供たちから地域の人たちに衛生に関する正しい知識が伝わることで、その地域一帯の衛生環境が整い、下痢症の発生率の減少等につながります。

集められた1円玉募金は、どのように活用されることになるのでしょうか？

- ①日本にいる青少年赤十字メンバーがお小遣いを節約したり、募金活動をして集めたお金を日本赤十字社を通じてネパールに送金します。
- ②日本から受け取った募金をもとに現地の赤十字スタッフが学校や地域の人々と話し合い、学校や地域に本当に必要な支援を考えます。手洗い場の整備やトイレなどの改善に使われます。
- ③活動は、トイレの正しい使い方や手洗いの大切さなどの知識を学ぶことに重きを置いております。知識を普及することで、正しい実践が根付くことを期待しています。
- ④学んだ知識は、子供たちの家族や地域の人たちにも伝えられます。子供たちから地域の人たちに衛生に関する正しい知識が伝わることで、その地域一帯の衛生環境が整い、下痢症の発生率の減少等につながります。

活動① トイレなどの衛生設備を年齢、障害、男女などに優しい状態に改善します。



蛇口、トイレのドアや窓などが適正な高さに配置され、年齢の違う子供たちにとって使いやすいものとなっている

車椅子が通れるスペースがある、手すりがついている、

男女別の設備になっている、女性用の衛生器具や使いやすい焼却炉などが備えられていること、など、

すべての子どもたちに対して優しい衛生設備になるよう改善を加えます。

また、子供たちが積極的にトイレの清掃や管理を行うことで、衛生状態を保ちます。

活動② 石鹼での手洗い方法を学びます。



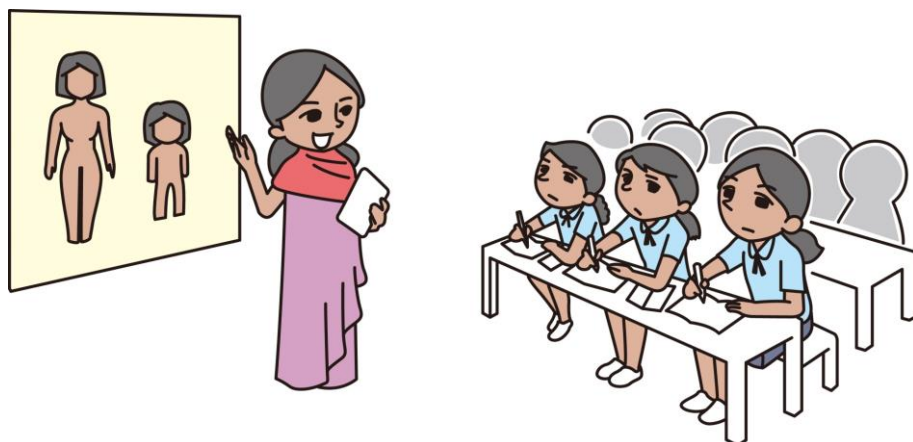
トイレなどの衛生設備を導入するだけで、食事前などの必要時に手洗い慣行を教育しなかった場合、

下痢症や5歳未満時の死亡率減少にはつながらないというデータがあります。

したがって、積極的な石鹼での手洗いを推進することは学校での水と衛生環境の重要パートとして位置づけられています。

特に妊娠している母親や学校の子供たちに対して、子供の死亡率、下痢症発生率を下げるために集中的に教育をする予定です。

活動③ 月経衛生管理について学びます。
(女性の月経のしくみを学んだり布ナプキンなどを作成します。)

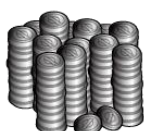


男女別の衛生環境を整えることと並行して、
特に思春期の女子に向けた月経教育や衛生的なナプキンの作成などを行います。
月経時に学校に行かないような生徒の数を減らすために、正しい知識の普及と理解が必要となっています。



1円玉募金で実現できること

1円玉 ¥1,000分集めてできること



1,000



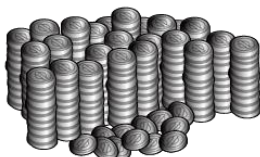
1円玉 ¥5,000分集めてできること



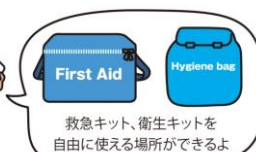
5,000



1円玉 ¥10,000分集めてできること



10,000



1円玉を1,000枚集めて(1,000円):救急法セットを1セット購入できる

1円玉を5,000枚集めて(5,000円):衛生キットを1セット購入できる

1円玉を10,000枚集めて(10,000円):衛生設備ルームを作成できる



JRCサークルも盛んに活動を行っているので、サークルメンバーを通じた知識の普及、結果もたらされる感染症の減少等が期待されます。

ネパールの子供たちの笑顔のために、青少年赤十字メンバーとして何ができるか考えてみましょう。

バヌアツ



学校における防災減災プログラム

[The children are prepared-School Disaster Preparedness Program]

事業目標

- 目標1: 学校において災害リスク軽減と防災の正しい知識を教えられる環境を作る
- 目標2: ターゲットとなる小学校の先生と生徒の災害リスク軽減の知識を増やす
- 目標3: バヌアツ赤十字社のボランティアのネットワークを強化し
災害時に対応できるようにする

主な事業内容

- 防災教育分野においてバヌアツ政府との公式なパートナーシップを結ぶ
- 防災減災のツールを小学校のカリキュラムに組み込む
- 先生、生徒に対する防災減災のトレーニングの実施
- 対象校の先生、生徒の基礎的な救急法の受講
- すべての支部において、ユースボランティア防災減災チームを構築し、学校と協同する

次に、バヌアツにおける事業の概要を詳しく見ていきましょう。

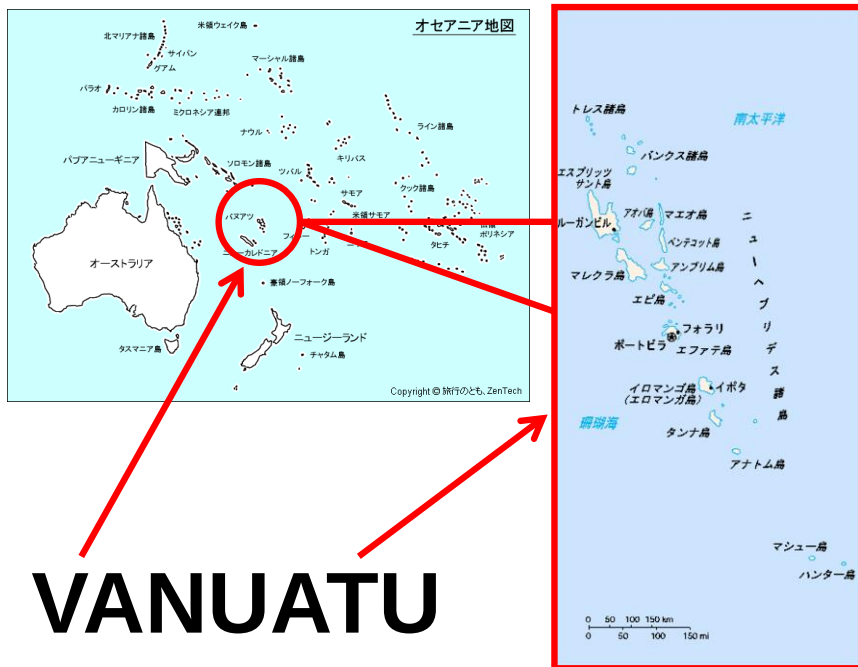
バヌアツでは、学校における防災減災教育の事業を実施します。

バヌアツは世界でもっとも自然災害に対して脆弱な国です。

地震や津波、火山噴火、サイクロン、洪水といった災害リスクに常にさらされており、

一昨年3月には巨大サイクロンにより人口の70%が被害を受けました。

防災知識の普及、学校での災害対策が進んでいないので、被害の拡大を招いています。



VANUATU

オーストラリアの北東に位置する島国で83の島からなり、面積は新潟県とほぼ同じ大きさ、人口は24万人です。



2015年 サイクロン・パム



2015年3月に起きたサイクロンパムの結果、前述のとおり人口の70%以上の人が被害を受けました。

キャパシティや地図上の位置や輸送などあらゆる観点から見て、自然災害のリスクが高い国であるという

報告 (World Risk Report, United Nations University 2016)もあり、

バヌアツ赤十字社自体が災害リスク軽減や防災教育への意識が高いといえます。



災害のない普段は海に囲まれたとても穏やかな国です。



子供たちの学校における授業の様子です。

子供たちは授業をとても真剣にうけており、勉強をして新しい知識を得ることをとても楽しみにしています。

子供たちの識字率はとても高いので、知識の吸収と子供を中心とした知識の普及が期待できます。



1円玉募金のゆくえ -in バヌアツ-

日本国内の学校で
1円玉募金を実施



日本にいる青少年赤十字メンバーがお小遣いを節約したり、募金活動をして集めたお金を日本赤十字社を通じてバヌアツに送金します。

募金の使い道を
現地のニーズに
応じて工夫



日本から受け取った募金をもとに現地の赤十字スタッフが政府や学校と話し合い、学校で使える防災教材を作成。

正しい知識を学び
学校内で広める



授業の中で災害について学び、命の守り方についての理解を深めるだけではなく、避難訓練などを通じて実践的な方法を学びます。

子どもから家庭や
地域コミュニティ
へ発信



防災学習がカリキュラムに正式に組まれることで、知識の広がりを確実にし、また学んだ知識を子供たちから親、地域に広げ、バヌアツに住む人たちが災害に対する共通認識をもてるようにします。

集められた1円玉募金は、どのように活用されているのでしょうか？

- ①日本にいる青少年赤十字メンバーがお小遣いを節約したり、募金活動をして集めたお金を日本赤十字社を通じてバヌアツに送金します。
- ②日本から受け取った募金をもとに現地の赤十字スタッフが政府や学校と話し合い、学校で使える防災教材を作成。
- ③授業の中で災害について学び、命の守り方についての理解を深めるだけではなく、避難訓練などを通じて実践的な方法を学びます。
- ④防災学習がカリキュラムに正式に組まれることで、知識の広がりを確実にし、また学んだ知識を子供たちから親、地域に広げ、バヌアツに住む人たちが災害に対する共通認識をもてるようにします。

活動① 防災・減災の教材を開発、カリキュラムに組み込みます。



メインの活動は日赤が作成している「まもるいのち ひろめるぼうさい」のような防災教材を作成し、防災学習をカリキュラムに組み込むことです。

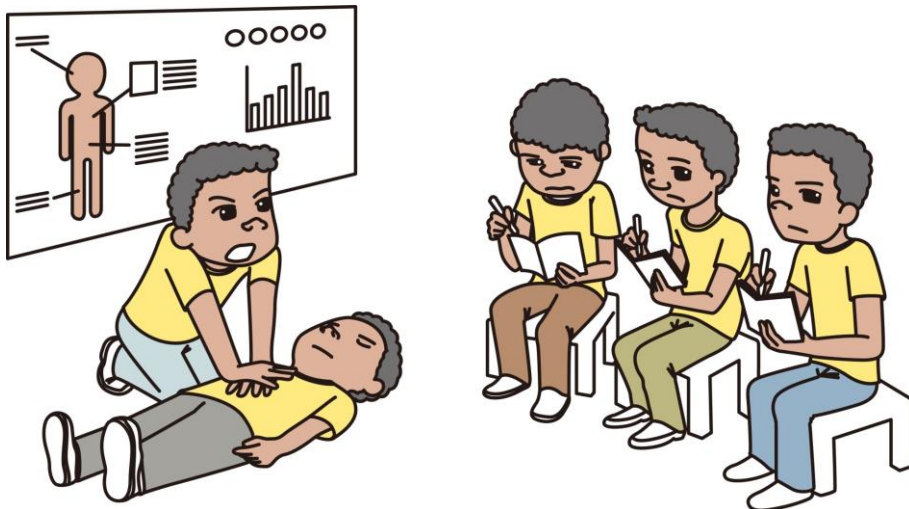
内容としては「災害とは何か」「災害が発生した際どのように自分自身の身を守るか」という、

迫りくる災害に対しすぐに役立つ知識が教材のメイン内容となるかと思われます。

また、カリキュラムに組み込むにとどまらず、本事業終了後は、

持続性を担保するためにもこの事業で作成した教材が最終的に国家基準として使用されることを目指して3年間の計画を描いています。

活動② 国の教師養成学校において、防災減災ツールを開発、活用していきます。



バヌアツに唯一ある学校教師を養成する学校(大学の教育学部のようなもの)においても、

「国語」「社会」などの教科のひとつとして「防災」という教科の教授方法を教えます。

将来教師になる人たちに対して知識を普及することで、島国のバヌアツにおいて効果的に知識を吸収・普及することを目指しています。

ここでも、作成した防災教材を使用することとしています。

活動③ 避難訓練や救急法を実施します。



自分の身を守る実践的な方法として、学校における避難訓練や救急法研修を実施し、

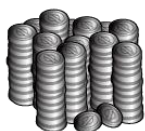
具体的なスキルを身につけます。

救急法の指導は、バヌアツ赤十字社に所属しているユースボランティアを中心に実施する予定です。



1円玉募金で実現できること

1円玉 ¥500分集めてできること



500

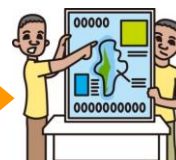


救急法研修で使う包帯を買えるよ

1円玉 ¥5,000分集めてできること

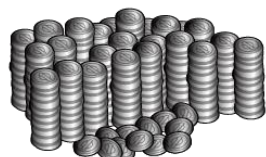


5,000



災害学習の説明ポスターを
ひとつ作れるよ

1円玉 ¥20,000分集めてできること



20,000



ヘルメットや消火器をそろえて
学校で避難訓練を
実施できるよ

1円玉を500枚集めて(500円): 救急法研修で使う包帯を購入できる

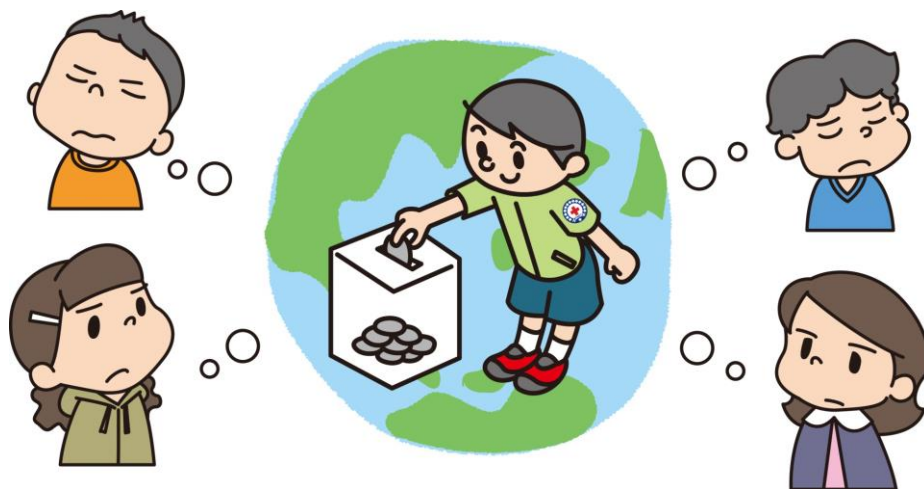
1円玉を5,000枚集めて(5,000円): 災害学習の説明ポスターを作製できる

1円玉を65,000枚集めて(20,000円): 避難訓練を実施できる



バヌアツの子供たちの笑顔のために、青少年赤十字メンバーとして何ができるか考えてみましょう。

わたしたちにできることは、 何でしょうか？



1円玉募金を通じて、彼らの生活の改善のために、何ができるのか理解を深められたでしょうか？

そして、私たちにできることは何でしょうか？

- ・ネパールとバヌアツのこと、各国の子供たちの現状について調べよう
- ・現地の子供たちと交流しよう(トピックアルバムや直接交流できるプログラムに参加しよう)
- ・青少年赤十字活動資金(1円玉募金)に協力しよう

この「青少年赤十字海外支援事業」は、わたしたち青少年赤十字の3つの実践目標

「健康安全」「奉仕」「国際理解・親善」を体現する、大切な活動なのです。